

青木野枝《物語》(部分) 2020年 gallery21ye-j ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY 写真: 山本耕



そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵

Wonderment Noe Aoki / Ritsue Mishima

Sat, November 30, 2024 – Sun, February 16, 2025

Hours: 10:00–18:00 (Last admission at 17:30)

*November 30, December 6, 7 opening until 20:00 (Last admission at 19:30)

Closed: Mondays (except January 13), during the New Year's Holidays (December 28–January 4) and January 14

朝香宮邸でつむぐ鉄とガラスの創造

観覧料一般 1,400 (1,120) 円、大学生(専修・各種専門学校含む) 1,120 (890) 円、
中学生・高校生および 65 歳以上 700 (560) 円

※施設内各スポットはシートランニングおよび荷物預留(荷物預留料 1,200 円)にて、運営時間内に限り、入館料を支払った方の個人として、2024年 11月 30日(水)～2025年 1月 14日(日)まで、各スポットにて、購入ください。各スポットは施設内にて、運営時間外は入場料は不要となります。
※(一) 内は 2 歳以上(出産料)、小学生以下の在住者(新規・身障者者優先・要手帳・癡呆手帳・精神疾患者証・難聴者証等)をお持ちの方(その介護する名は無料)、教育活動として教師が引き連れる園内の小中・高校生おもび教諭は無料(事前申込が必要)(第 3 手帳日(シルバーデー)は 6 歳以上の方は無料)

2024年 11月 30日(土)～2025年 2月 16日(日)
開館時間 10 時～18 時(入館は閉館の 30 分前まで)
※11月 30 日、12月 6 日・7 日は秋の夜間開館のため夜 20 時まで
休館日 毎月 1 日(月)～4 日(木)は休館
※ただし 1 月 13 日(月)～14 日(火)は開館、1 月 15 日(水)は休館
主催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
年間協賛 一戸田建設株式会社 ブルームバーグ L.P.

Bloomberg
Van Cleef & Arpels

東京都庭園美術館

T 108-0071 東京都港区白金台5-21-9 お問い合わせ = 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
5-21-9, Shirokanedai, Minato-ku, Tokyo Tel. +81(0)50 5541 8600
www.tcn-art-museum.jp SNS: @tcnartmuseum
アクセス = [日黒駅] JR山手線 東口／東急日黒線 正面口より 徒歩7分
[白金台駅] 都営三田線／東京メトロ南北線 1番出口より 徒歩6分



各位　日頃より東京都庭園美術館をお引き立ていただき誠にありがとうございます。
当館では2024年11月30日（土）～2025年2月16日（日）の会期で
「そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵」展を開催いたします。
ぜひ貴媒体にて本展をご紹介いただけますよう、お願い申し上げます。

開催概要

展覧会名　**そこに光が降りてくる 青木野枝／三嶋りつ恵**

会期　2024年11月30日（土）～2025年2月16日（日）

開館時間　10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）

※11月30日、12月6日・7日は秋の夜間開館のため20:00まで開館（入館は19:30まで）

※2025年1月22日（水）・29日（水）は、フラットデー開催のため無料・割引対象者以外は要事前予約

休館日　毎週月曜日および年末年始（12月28日～1月4日）

※ただし1月13日（月・祝）は開館、1月14日（火）は休館

会場　東京都庭園美術館 本館＋新館

観覧料　一般＝¥1,400（¥1,120）／大学生（専修・各種専門学校含む）＝¥1,120（¥890）／

中・高校生＝¥700（¥560）／65歳以上＝¥700（¥560）

※展覧会チケットはオンラインおよび美術館正門チケット売り場にてご購入いただけます。ただし、2025年1月22日（水）・29日（水）はフラットデー開催日のため、美術館正門チケット売り場での販売はいたしません。無料・割引対象者以外はオンラインにてご購入ください。チケット販売に関する最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。

※（ ）内は20名以上の団体料金／小学生以下および都内在住中学生は無料／身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料／教育活動として教師が引率する都内小・中・高校生および教師は無料（事前申請が必要）

※第3水曜日（シルバーデー）は65歳以上の方は無料

主催　公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館

年間協賛　戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P. **Bloomberg** **Van Cleef & Arpels**

会場情報

東京都庭園美術館　東京都港区白金台5-21-9

[目黒駅] JR 山手線東口／東急目黒線正面口より徒歩7分

[白金台駅] 都営三田線／東京メトロ南北線1番出口より徒歩6分

TEL. 050-5541-8600（ハローダイヤル）03-3443-0201（代表）／FAX. 03-3443-3228

Website www.teien-art-museum.ne.jp

SNS: Facebook, X, Instagram @teienartmuseum



X



Instagram

展覧会広報お問い合わせ先

TEL. 03-3443-0201 / MAIL. press@teien-art-museum.ne.jp

東京都庭園美術館広報担当：平木、中島

本展概要

降り注ぐ太陽の光、おだやかな温もりを感じさせる日だまり、暗闇の中に差し込む月明かり…
私たちは生きている間に、さまざまな光との邂逅を重ねています。

本展は、現代美術の第一線で活躍を続ける二人の作家、青木野枝と三嶋りつ恵が、当館の各所に作品を配置し、新たな視点でアール・デコの装飾空間を照らし出す企画です。

青木は鉄を用いて空間に線を描くような彫刻で表現の地平を切り拓き、三嶋は無色透明のガラス作品を通して場のエネルギーを掬い取り光に変換してきました。

二人が使用する“鉄”と“ガラス”という素材は、悠久の時を経て今日に伝えられた自然の恵みであると同時に、会場である旧朝香宮邸を彩る装飾として、シャンデリアやレリーフ、扉上のタンバン等にも多用されています。二人は幾度となくこの場所を訪れ、1930年代の装飾空間との対話を重ねて、本展のために一期一会の展示プランを作り上げました。

ともに創作に火を用い、熱く輝く炎によって、素材に生命を吹き込んできた青木野枝と三嶋りつ恵。そのプリミティブな力を宿したフォルムは、自然のもつエネルギーと循環を想起させ、見る者に驚きと気づきをもたらし、私たちを取り巻く世界を新たな光で包み込みます。

本展の見どころ

1. 光に対して特別な想いを抱いてきた二人の現代作家による大型インсталレーション

精力的な活動を続ける二人の女性作家が、本展のために特別に作品を準備し、展示を構成します。青木野枝は、重い素材とされる鉄に向き合い、鉄を溶断する時にあらわれる内部の「透明な光」から様々なインスピレーションを得てきました。一方、三嶋りつ恵は、私たちの身の周りに溢れる光の表情に心を寄せて、自身のガラス作品を通して「光の輪郭」を描き出そうと試みてきました。光に対する意識や向き合い方は異なる二人ですが、光に思いを馳せて生み出された作品が、陰影に富んだ空間に広がります。昼は自然光が差し込み、夕暮れには温かな室内照明が灯る。時間ごとに、季節ごとに、絶えず変化する展示風景をぜひご鑑賞ください。

2. アール・デコの館を舞台に、時を超えて響き合う“鉄とガラス”

庭園美術館本館の最初の住人である朝香宮夫妻は、フランスで目にしたアール・デコの様式美に魅了され、その精華を取り入れた自邸を1933年に完成させました。それこそが、本展の舞台となる朝香宮邸です。各室ごとに様々な素材を用いた装飾性豊かな朝香宮邸の空間で、アール・デコの造形のエッセンスを雄弁に物語るのが、鉄とガラスという二つの素材です。フランスのアーティストであるルネ・ラリックやレイモン・シュブらが手がけた歴史的な装飾空間に、青木野枝と三嶋りつ恵の鉄とガラスの作品が作家自身の手によって配置され、時を超えた特別な競演が実現します。

3. 二人の作家の今を見つめる

展览会では生まれたばかりの新作も公開されます。また本展用に収録した作家インタビューや、作家が撮影した写真イメージ、制作工程が分かる映像や資料も併せてご紹介します。私たちと同じ時代に生きる二人の作家は、今、何を想い、何を見つめているのでしょうか。二人の日々の眼差しを通して、創作の息吹をお伝えします。

4. 作品との出会いを深め、対話をつむぎだす関連プログラム

二作家が展览会の自作について語るアーティストトーク（2月15日）、展览会スタッフが作品の魅力を語るギャラリートーク、作品を見て光についてゆっくり考えるための「哲学対話」（12月22日）、作品の一部に触れて楽しむ「さわ会—さわっておしゃべり鑑賞会」（2月1日）など、光と場をめぐる多彩な対話のプログラムを準備します。今ここでしか出会えない光景から生まれる言葉や考えを共有する機会にぜひご参加ください。

出品作家プロフィール

青木野枝 | Noe AOKI



撮影：砺波周平

1958年東京都生まれ、埼玉県在住。

1983年武蔵野美術大学大学院造形研究科（彫刻コース）修了。

活動当初から一貫して、鉄を素材に抽象彫刻を生み出してきた彫刻家。工業用の鉄板を溶断して線や円を切り出し、そのパーツを展示空間やその場に合わせて巧みに繋ぎ合わせて作品化する。ガラスや石鹼など異なる素材を鉄と組み合わせた作品も発表。

鉄という重い素材を用いながらも、その作品は軽やかな浮遊感を放ち、まるで空間の中に描かれたドローリングのようだと評される。自然の働きを想わせるタイトルを作品に付すことも多く、その場に現れるインスタレーションを通して、変化や増殖といった生命感を呼び覚ます風景を立ち上げる。

都内では、日本生命浜松町クレアタワーの屋外などに彫刻作品を常設。

主な個展 「青木野枝 光の柱」市原湖畔美術館（千葉）2023年 / 「青木野枝 ふりそぐものたち」長崎県美術館 2019年 / 「青木野枝 霧と山」霧島アートの森（鹿児島）2019年 / 「青木野枝 霧と鉄と山と」府中市美術館（東京）2019年 / 「青木野枝 ふりそぐものたち」豊田市美術館・名古屋市美術館（愛知）2012年



参考画像（左から）

『光の柱 I』市原湖畔美術館（千葉）展示風景 2023年 /
『もどる水』gallery21yo-j（東京）展示風景 2023年 /
『core -3』（部分）「六本木クロッシング2022展：往来オーライ！」森美術館（東京）展示風景 2022年

いずれも ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY (撮影：山本糸)

鉄は透明な金属

そしていつも内部に透明な光をもっている

——青木野枝

三嶋りつ恵 | Ritsue MISHIMA



撮影：Francesco Barasciutti

1962年京都府生まれ、1989年からヴェネツィアに移住。

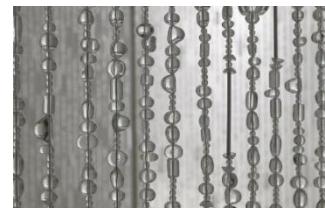
2011年より京都にも住まいを構え、イタリアと日本との二拠点生活を送る。

千年にわたり、ガラスの伝統技術が受け継がれるヴェネツィア・ムラーノ島において、工房のガラス職人とのコラボレーションにより作品を制作。無色透明なガラスにこだわり、光の輪郭を描き出す有機的なフォルムの作品を生み出してきた。伝統ある古い建造物の中で作品を展示することも多く、置かれる空間の特性を意識したインスタレーションで評価が高い。

三嶋の作品はそこに存在する場のエネルギーを汲み取り、それをガラスのフォルムや輝きによって増幅させ周囲の空気を一変させる力を備えている。

都内では、COREDO室町テラスの吹き抜け空間などにガラス作品を常設。

主な個展 「RITSUE MISHIMA – GLASS WORKS」国立アカデミア美術館（ヴェネツィア）2022年 / 「IN GRIMANI」国立パラツォ・グリマーニ美術館（ヴェネツィア）2013年 / 「あるべきようわ」資生堂ギャラリー（東京）2011年 / 「Frozen Garden / Fruits of Fire」トイマンス・ヴァン・ペーニンゲン美術館（ロッテルダム）2010年 / 「しづかな粒子」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）2007年



参考画像（左から）

『SPIN』©Ritsue Mishima (撮影：ニシカワヨシエ) /
『VITA』個人蔵、2023年
©Ritsue Mishima, courtesy of ShugoArts /
『HALL OF LIGHT』（部分）
「光の場」ショウゴアーツ（東京）展示風景 2019年
©Ritsue Mishima, courtesy of ShugoArts (撮影：Shigeo Muto)

私のガラスは無色透明です
そして周りの光や色をとらえて解き放つのです

——三嶋りつ恵

関連プログラム

- 青木野枝・三嶋りつ恵によるアーティストトーク** —— 2月15日（土）14:00～15:30（要申込）
出品作家二人が登壇し、出品作品や展覧会について語ります。
- ギャラリートーク「朝香宮邸をめぐる光、そして鉄とガラス」** —— 1月23日（木）/ 2月6日（木）11:00～12:00（当日受付・先着10名）
本展スタッフが出品作品や展覧会エピソードについて語ります。
- 哲学対話「ともに考える、対話する－光ってなんだろう？」** —— 12月22日（日）14:00～16:30（要申込）
作品を見た後、テーマや作品についてゆっくり対話しながら考えを深めます。
——企画・ファシリテーター NPO法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
- さわ会—さわっておしゃべり鑑賞会「触れて、感じて、対話する」** —— 2月1日（土）14:00～16:00（要申込）
作品やその素材に触れ、作家の制作過程を想像しながら鑑賞を楽しみます（視覚に障害がある方もない方もご参加いただけます）。
——企画 半田こづえ（明治学院大学 非常勤講師）
- 先生のための特別研修会** —— 12月6日（金）18:00～20:00（要申込）
先生による先生のための美術館プログラム。展覧会を鑑賞する際のポイントなどをご紹介します。
——企画 江原貴美子（港区立笄小学校 図工講師）

関連プログラム（フラットデー）



東京都庭園美術館は、あらゆる方にとって居心地の良い場となることを目指し、来館するすべての人がフラットに、ゆとりある環境づくりに取り組みます。
フラットデー開催日は事前のオンラインチケットのご予約・ご購入をお願いいたします。
当日、窓口でのチケット販売はいたしません。障害者手帳等をお持ちの方、小学生以下の子どもさん、各種割引が適用される方、無料対象の方はご予約不要です。あらかじめご了承ください。

1. ゆったり鑑賞日

障害がある方も、ない方も、美術館をゆっくり楽しめませんか？
全体の入館人数を制限し、普段よりも空いた環境でゆっくりとご鑑賞いただける一日です。
多くの人が賑わう美術館に不安がある方も、車椅子の方や介助等が必要な方も、安心してお過ごしいただけます。

開催日時：2025年1月22日（水）10:00～18:00（最終入館17:30）



2. ベビーアワー

赤ちゃんと暮らすご家族のみなさんに気兼ねなく展覧会をご覧いただける時間です。
普段はベビーカーを使うことができない本館もベビーカーのままご入館いただけます。
開催日時：2025年1月29日（水）10:00～15:00（本館内でベビーカーを利用できる時間）



鑑賞ツアー同時開催

フラットデー当日はアート・コミュニケータによる鑑賞ツアーも行います（要申込）。



最新情報や申込方法など詳細は当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

詳細はウェブサイトへ

会場での撮影

会期中は、写真撮影をお楽しみいただけます。

本展会期中は、写真撮影が可能です（一部の資料・映像・展示を除く）。

会場に掲出している諸注意を必ずご確認いただき、館内スタッフの指示に従ってください。

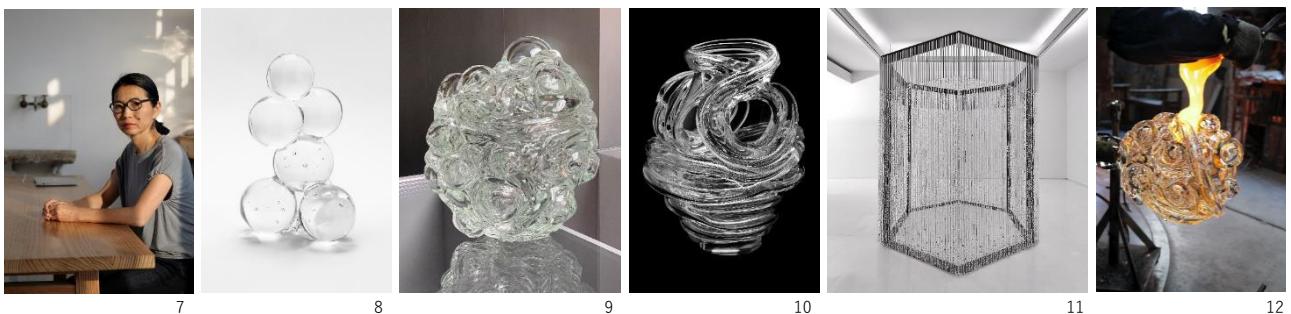


広報用画像（青木野枝）



1. 青木野枝 ポートレイト（撮影：砺波周平）
 2. 青木野枝《微塵》2020年 gallery21yo-j（東京）展示風景 ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY（撮影：山本糾）
 3. 青木野枝《もどる水》2023年 gallery21yo-j（東京）展示風景 ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY（撮影：山本糾）
 4. 青木野枝《光の柱》2023年 市原湖畔美術館（千葉）展示風景 ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY（撮影：山本糾）
 5. 青木野枝《立山 2020-9》2020年 ©Noe Aoki, courtesy of ANOMALY（撮影：三嶋一路）
 6. 青木野枝 制作風景（鉄の溶断）（撮影：砺波周平）

広報用画像（三嶋りつ恵）



7. 三嶋りつ恵 ポートレイト（撮影：Francesco Barasciutti）
 8. 三嶋りつ恵《VENERE》2023年 UESHIMA MUSEUM COLLECTION（撮影：Francesco Barasciutti）
 9. 三嶋りつ恵《FONDO DI LUCE》2022年（撮影：三嶋りつ恵）
 10. 三嶋りつ恵《INFINITO》2022年 ©Ritsue Mishima, courtesy of ShugoArts（撮影：Francesco Barasciutti）
 11. 三嶋りつ恵《HALL OF LIGHT》2019年 ©Ritsue Mishima, courtesy of ShugoArts（撮影：Tadayuki Minamoto）
 12. 三嶋りつ恵 制作風景《FONDO DI LUCE》（撮影：Oliver Haas）

広報用画像（東京都庭園美術館／旧朝香宮邸）



展覧会広報お問い合わせ先

TEL. 03-3443-0201 / MAIL. press@teien-art-museum.ne.jp

東京都庭園美術館広報担当：平木、中島

13. 東京都庭園美術館 本館 第一段階
 14. 東京都庭園美術館 本館 正面玄関 ガラスレリーフ扉（部分）ルネ・ラリック作
 15. 東京都庭園美術館 本館 大客室 シャンデリア《ブカラレスト》ルネ・ラリック作
 16. 東京都庭園美術館 本館 二階広間照明柱
 17. 東京都庭園美術館 本館 大客室 扉上タンバン レイモン・シェプ作